

令和6年度 第1回学校運営協議会会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第10条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

1 会議名 中津川工業高等学校 学校運営協議会 (第1回)

2 開催日時 令和6年7月18日(木) (書面開催)

3 参加者 委員

早川 智晴	本校同窓会長
西尾 勇人	本校育友会長
新田 正己	坂本地区民生児童委員長
柘植富士男	(株)NPS SS
佐々木 瞳	三菱電機株式会社 中津川製作所
黒田ところ	中津川市議会議員
尾関里恵子	株式会社デンソーテン 中津川製作所

学校側	加藤 昌宏	校長
	田並 正	教頭
	西尾ゆかり	事務長
	後藤 昭博	教務主任
	水谷健太郎	生徒支援主事
	川添 栄二	進路支援主事
	小池 勉	工業部長
	丸山遼太郎	教務部：記録

4 本年の取組について

学校の各担当より説明(書面)

5 会議の概要(協議事項)

(1) スクール・ミッションについて

意見1：まずは学校としての考え方、スタンスでいいと思う。

意見2：スクール・ミッションに賛成である。地元企業の担い手として、また人材確保の観点から貢献度は高く社会的役割は大きいと感じている。生徒、保護者、市民や企業、市が共有することが大切だと思う。

意見3：「将来の地域産業を支える人材の育成を目指す学校」について、就職先が県外の比率が減少し、地域産業に関わるところまで学校側が支えてほしいと思う。

意見4：策定要領に沿って検討されており、特に意見はない。

意見5：地域産業を支える人材の育成は正にその通り。

(2) 「令和6年度教育指導の重点及び学校経営計画」について

意見1：問題ないと思う。

意見2：少子化、多様性の時代となった現代では学校の情報発信（HP、SNS、中学校出前授業など）の魅力アップと生徒1人1人の将来を考えた取組みが必要と感じた。

意見3：学校教育目標 2「自主創造性伸長を図る（）」の（）の中に、「コミュニケーション能力を養う」があると、分かりやすくなると思う。

意見4：多様化する個の特性・能力に応じた教育に尽力されている状況を理解した。

意見5：3つの方針、教育指導の重点などよく出来ている。3年間で取得できる資格は何かあるか。

(3) 本年度の本校の取り組み全般について

意見1：資料を見て課題が多いと感じた。地域・社会や企業・市とも連携して進めないと解決しないこともあると思う。

意見2：地域企業への技術支援の回数を増やしたり、地域企業が生産した商品を高校内に展示したりすることは可能か？生徒の見えるところにすぐ見れるのは非常に良いと思う。

意見3：地域と密着、連携して様々な企画を実行されている点について、非常に素敵な取組であると感じた。

意見4：企業による技術支援、中学校出前授業、インターンシップは是非継続を。

(4) 中津川工業高校の今後の在り方について

意見1：現状でいいと思う。

意見2：地元企業からの求人が多く、リニア中央新幹線岐阜駅（仮称）に1番近い工業高校としての期待は益々大きくなっている。少子化だが定員を満たす学校であることを熱望する。

意見3：地域産業に携わる進路に導く高校であってほしい。

意見4：少子化の影響で入学者数は減少傾向にあるとのことだが、是非今後もものづくりや地域企業への貢献に興味を持つ中学生が増加するよう、貴校の魅力PRに引き続き尽力してほしい。

意見5：人口減から将来の入学減はどこも同じ。地域産業から見て土木・建築は特に担い手不足。ここを重点化できないか。外国籍入学者も視野に入れて。

(5) その他

意見1：テクノボランティアでお世話になっている。あまり負担をかけないようにしたいと思うが、今後とも継続してほしい。

意見2：卒業生として母校発展のため微力ながらエールを送り続けたい。

(6) 事務連絡（学校運営協議会の開催日等）

第2回 10月末～11月中旬

第3回 1月末～2月上旬

6 会議のまとめ

第1回学校運営協議会は、諸般の事情により書面開催となったが、全委員より今年度の本校の学校経営計画を踏まえた学校運営基本方針について承認を得た。

今年度1年かけて、学校運営の根幹となる「スクール・ミッション」を策定することになるが、その第一歩として、原案を提示し、広く意見を得た。概ね好評であり、次回第2回の運営協議会の策定を目指す。また、「令和6年度教育指導の重点及び学校経営計画」は「スクール・ミッション」を柱としたものになるため、新たな項目を追加し、「第4次岐阜県教育振興基本計画」に即したものに修正を行う旨を説明し概ね了承を得た。

本校の取り組み全般については、概ね理解を得たほか、課題の指摘など貴重な意見も得た。評価されている部分は継続し、課題については今後必要に応じて見直しを進めていきたい。また本校の今後の在り方については、やはり地域産業の担い手を育成してほしいという地域の需要を強く感じる意見が多かった。少子化が少しずつ進んでいる中で、地元の中学生に選ばれ、存在意義が認められる学校作りが求められていると感じた。テクノボランティア、様々なイベントへの参加、コンテストへの出場などを通して、リニア中央新幹線岐阜駅（仮称）に1番近い工業高校としての地元の期待に答えるべく本校の魅力をあらゆる機会を通じて伝えていきたい。